

京都大学大学院教育支援機構プログラムについて

【ご意見・ご要望】(投稿日:2021年11月22日)

標題のプログラムの審査の方法に疑問があります。なぜ修士課程の審査が後回しになっているのでしょうか？

先日、博士課程進学を望んで表題のプログラムに応募しました。お金の心配なく研究できるのであればぜひ利用したいという動機で、不採択だった場合は遅ればせながら就活をしようと考えていました。しかし蓋を開けてみれば修士課程の学生の申請書については今回は審査すらされなかったとのことでした。修士の分の応募が2月ということは結果が出るのは3月ごろでしょうか。この時期から就活を始めて好待遇の職を得るのが困難であることは自明です。また、不採択となった時のために現在就活を始めたとしても3月の結果発表まで待つられる企業はほとんどないでしょう。2月に修士分を募集するということは、実質博士課程進学が決まっている学生のみチャンスがあるということです。もとの趣旨の「博士課程進学を促進する」に沿わないことは明白ではないでしょうか。なぜ修士課程の審査が後回しになっているのでしょうか？現在の審査方法では、金銭的なリスクのために進学と就職で迷っている修士2回生にアプローチできないでしょう。私自身も非常に困っています。人生や今後の収入にも直結する問題です。この分の保証などは考えているのでしょうか？

学振の結果発表が早かったなどはまったく理由とされていますが、理屈がわかりません。誠意あるご回答をのぞみます。

【回答】(回答日:2021年12月6日)

(回答部署:大学院教育支援機構)

進学前採用枠は、将来の日本、あるいは世界を牽引する研究者となり得る水準の修士課程学生を対象に、博士後期課程等への進学を促進し、進学後に就学・研究に専念させて確実に研究者等として育成することを目指すものです。

この考え方のもと、日本学術振興会特別研究員DC1に採択されるレベルの学生を対象として想定してきましたが、初年度である今回は、本プログラムを助成するJST・国立研究開発法人科学技術振興機構の次世代研究者挑戦的研究プログラムへの採択が9月と変則的なスケジュールとなり、更に本プログラムの出願受付開始前の9月27日にDC1第一次選考結果が公表されました。

そこで、現在DC1第二次採用内定候補者となっている者以外は、令和4年2月以降に実施予定の本プログラム追加募集の出願者として審査を持ち越し、この追加募集の新規出願者と合わせて、改めて通常枠としての選考を行うこととしました。